

公立学校情報機器整備事業に係る各種計画

令和7年3月

当麻町

【当麻町】端末整備・更新計画

1. 端末更新台数

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
①児童生徒数	429	415	408	377	375
②予備機を含む 整備上限台数	493	477	469	0	0
③整備台数 (予備機除く)	0	0	408	0	0
④③のうち基金 事業によるもの	0	0	408	0	0
⑤累積更新率	0	0	100.0%	100.0%	100.0%
⑥予備機整備台数	0	0	61	0	0
⑦⑥のうち基金事 業によるもの	0	0	61	0	0
⑧予備機整備率	0	0	15.0%	0	0

2. 端末の整備・更新の考え方

令和2年度GIGA第1期で整備した532台の端末について、令和8年度に469台を更新します。

3. 更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について

令和2年度に導入した532台の端末について、令和5年10月26日付け事務連絡「GIGAスクール構想の下で整備された1人1台端末等の適切な処分（再使用又は再資源化）等について」に沿って使用可能な端末は、指導者用端末として活用するなど学校要望を確認した中で活用します。

また、再使用等ができない端末は、小型家電リサイクル法に基づく認定事業者若しくは資源有効利用促進法に基づく製造事業者等への処理委託を依頼し、端末内のデータ消去についても委託する予定です。

4. スケジュール（予定）

令和8年度中 新規購入端末の納品及び使用開始

令和9年度中 処分業者の選定及び使用済み端末の事業者への引き渡し

【当麻町】ネットワーク整備計画

1. 町内小中学校におけるネットワークの現状

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
十分なネットワーク速度が確保できている学校の割合	33.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
アセスメントの実施有無	有 (簡易測定)	有 (簡易測定)	有 (簡易測定)	有 (簡易測定)	有 (簡易測定)
本町において独自に実施した調査結果では、学校規模ごとの帯域速度の目安を超える学校は1校であり、総学校数に占める割合は33%となっている。					

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

令和7年度に小中学校通信設備改修工事を実施し、町内全ての小中学校において課題の改善を図ります。

【当麻町】 校務DX計画

各学校が教育目標の実現に向けて、限られた人的・物的資源を効果的に活用しながら、真に必要な教育活動に注力するため、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言及び「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている項目を参考に、学校の実態を考慮してICTを積極的に活用した教育活動や業務を推進し、校務のDX化を推進します。

1. 学校と各家庭における連絡等のデジタル化

各家庭から学校への調査やアンケート、配布物などについて、クラウドサービス等を積極的に活用します。また、児童生徒の端末持ち帰りを積極的に進め、家庭学習等のデジタル化を進めます。

2. 教員業務の効率化

校務支援システムを中心に、クラウドサービスを活用し職員間の情報共有や連絡について、ペーパーレス化等効率化を図ります。

3. FAX・押印等の見直しについて

災害やネットワークの不具合など、FAXの方が電子メール等より効率的であるような緊急の場合を除き、FAX及び押印の原則廃止に向けて、各関係機関に対して働きかけるなど、継続的な見直しを行います。

4. ペーパーレス化について

学校現場は依然として紙ベースの資料が多いため、業務の円滑化・効率化の観点から、1人1台端末を学校全体で有効活用し、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていきます。

【当麻町】 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が示されています。

このことを踏まえ、本町では子どもたちの状況に応じた学びを進めるために、1人1台端末を効果的に活用した授業の展開を進め、ICT機器を利活用した教育と対面での教育を融合させ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を推進します。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に1人1台の端末整備と各小中学校への無線環境整備を実施し、当麻町教育研究会のICT研究部会を中心として、ICT活用に係る授業研究・研修の実施や、各学校においてICTの知見が高い教職員が活用の牽引を行うことによって、積極的な活用が進んだ結果、効果的な学習につながりつつあります。

また、オンライン学習教材のクラウドサービスを導入し、学習の充実を図っています。

一方で、活用状況の差が課題となっており、全ての児童生徒が1人1台端末を最大限に活用して、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」となるよう、研修環境やサポート体制の充実が必要となっています。

3. 1人1台端末の利活用方策

オンライン学習教材等のクラウドサービスを効果的に活用し、個々の興味や関心、学習の進度や課題等を踏まえて、児童生徒の個性に応じた学びとなるよう1人1台端末を積極的に活用します。

また、各学校にICT専門教職員を任命して、より良い授業づくりへ向けた活用のサポートを行います。

ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、全ての児童生徒が平等に学びの機会を得られるよう、1人1台端末を最大限に活用して児童生徒の主体的な学びを支援します。